

エコ歴史しん聞

発行者

小島涼
小倉明香
松本菜都

エコ歴調査隊

新旧エコ対決

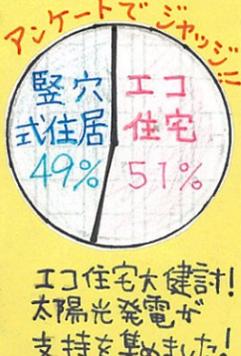
私たち6年生は、歴史の勉強をしています。そこで私たちは、今と昔を比較して、どちらの方がエコなのか、調べてみました。

どっちがエコ?



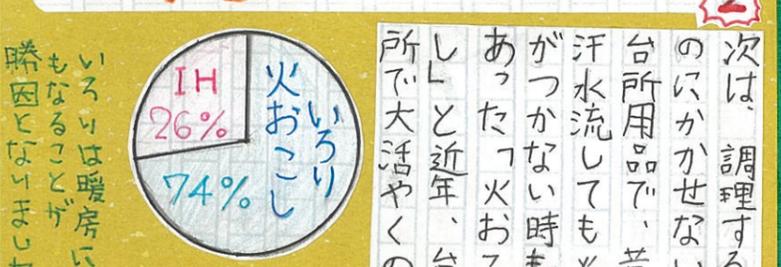
対決1

私たちが6年生は、4月に堅穴式住居について勉強しました。縄文時代によく見られた堅穴式住居と、最近よく見られるエコ住宅は、どちらがエコなのか、調べてみました。堅穴式住居のエコなところは、材料が少なく、屋根に使われている「かやぶき」は、最もエコな屋根です。また、CO₂を排出しないで吸収し、夏には涼しくする効果もあります。エコ住宅は、ソーラーパネルで電気を作り、それを家庭で使え、節電になります。中野小6年生にアンケートをとったところ、



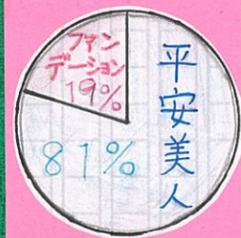
次は、調理するのにかかせないIHを比較してみました。IHクッカー(右)は、約200年経った民家を訪ねました。火おこし(左)は、暖房にもなることが、勝因となりました。

IH VS 火おこし & いろいろ

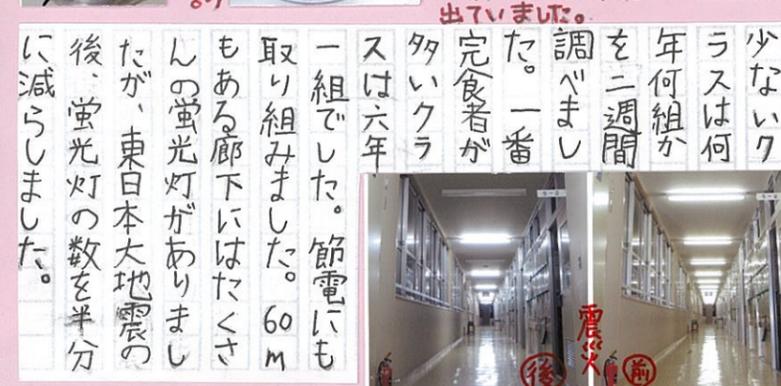


いつの時代もきれい & エコがい!

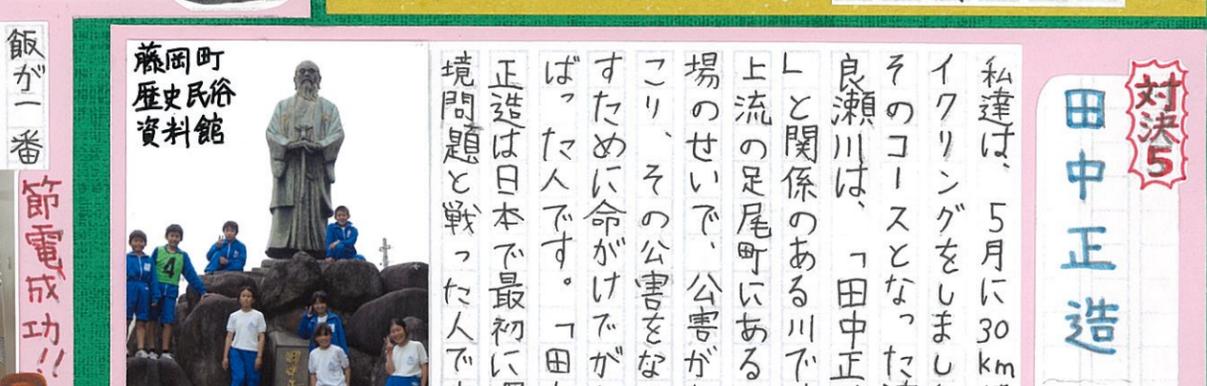
次の対決は、歴史で平安時代を勉強したとき、私たちが実際に体験した「平安美人」と現代も女性が顔を美しく見せるために使っている「ファンデーション」を比較してみました。自然素材の勝利です。でもこれでは、街は歩けません。



私達も「もったいない」を実践して、学校給食で給食完了した。食残を減らしました。残食は毎日減らしています。



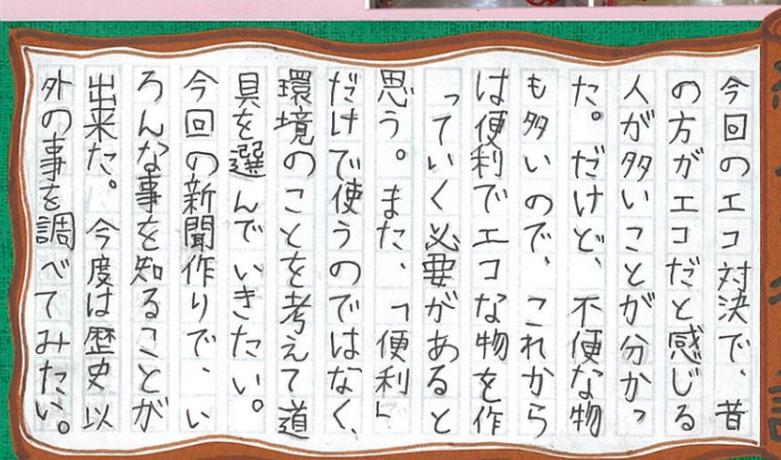
次の対決は、江戸時代にいろいろな生活用品をつくらった「江戸職人」と最近、安くて便利な「100均」を比較してみました。



私達は、5月に30kmサイクリングをしました。そのコースとなった渡良瀬川は、「田中正造」と関係のある川です。上流の足尾町にある工場、その公害が起つたために命がけでがんばった人です。「田中正造は日本で最初に環境問題と戦った人です。」



飯が一番少ないワラスは何年何組かを二週間調べました。一番完食者が多いクラスは6年1組です。節電成功!!



今年9月に亡くなった元ケニアの環境副大臣の「ワンガリ・マタイレさん。アフリカ人女性として初めてノーベル平和賞を受賞しました。日本に来たとき、もったいないという言葉に感動したそうです。そしてその「もったいない」という言葉を世界の共通語にしようという努力をしました。

今回のエコ対決で、昔の方がエコだと感じる人が多いことが分かりました。だけど、便利な物も多いので、これからは便利でエコな物を作っていく必要があると思います。また、「便利」だけで使うのではなく、環境のことを考えて道具を選んでいきたい。今回の新聞作りで、いろんな事を知ることが出来た。今度は歴史以外の事を調べてみたい。

編集後記